



福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	原発事故後の山形大学構内の大気浮遊塵に含まれるセシウム濃度の時間推移について III
Alternative_Title	Profiles of radioactive Cs concentrations of the atmospheric suspended dust at Yamagata University after the F-1 nuclear power plant accident III
Author(s)	乾 恵美子(山形大学), 清水 啓文(山形大学), 岩田 尚能(山形大学), 門叶 冬樹(山形大学), 櫻井 敬久(山形大学) Inui, Emiko(Yamagata Univ.); Shimizu, Hirofumi(Yamagata Univ.); Iwata, Naoyoshi(Yamagata Univ.); Tokanai, Fuyuki(Yamagata Univ.); Sakurai, Hirohisa(Yamagata Univ.)
Citation	第 55 回アイソトープ・放射線研究発表会要旨集, p.45 55th Annual Meeting on Radioisotope and Radiation Researches
Subject	セッション：福島第一原発事故関連_大気・海洋・土壌・生態系
Text Version	Publisher
URL	https://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/161513
Right	© 2018 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第 55 回アイソトープ・放射線研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。



2a- I -01

原発事故後の山形大学構内の大気浮遊塵に含まれるセシウム濃度の時間推移についてⅢ Profiles of radioactive Cs concentrations of the atmospheric suspended dust at Yamagata University after the F-1 nuclear power plant accident Ⅲ

山形大・理 RI 実験室*1, 山形大・院理工*2, 山形大・理*3
○乾恵美子*1、清水啓文*2、岩田尚能*3、門叶冬樹*3、櫻井敬久*3
(INUI, Emiko; SHIMIZU, Hirofumi; IWATA Naoyoshi; TOKANAI, Fuyuki; SAKURAI, Hirohisa)

1. はじめに

2011年3月11日に起きた東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故は、山形県の放射線環境にも大きな影響を及ぼした。山形大学（山形市）では事故以前からハイボリュームエアースンプラーを設置し放射線環境のモニタリングを継続して行っている。本講演では、原発事故後2013年から4年間の山形市における地表付近の大気中放射性セシウム濃度の地表高度に対する時間推移について発表する。

2. 観測

ハイボリュームエアースンプラーは、山形大学理学部5階屋上（地上約15m）と山形大学理学部放射性同位元素実験室の全天候型放射線モニター室（地上約1m）に設置している。理学部屋上のハイボリュームエアースンプラー（HV-1000F、柴田科学）は1000L/minで1日あたり23時間、全天候型放射線モニター室のハイボリュームエアースンプラー（HV-500R、柴田科学）は500L/minで約1週間の大気吸引を行っており、大気中浮遊塵はガラス繊維ろ紙（GB-100R）にサンプリングしている。放射性核種の測定・分析は、高い遮蔽能力を有する遮蔽装置を持った低バックグラウンド高純度Ge半導体検出器により行っている。

3. 結果および考察

図1は、理学部屋上でサンプリングされた ^{137}Cs 濃度の月間平均濃度を2013年から2016年まで示している。各年の1月から6月までの ^{137}Cs 濃度の平均値は、7月から12月の平均値より1.2~1.8倍高く、5月にピークを示していた。山形市の ^{137}Cs 濃度の4年間の季節変動の変化について気象データと比較して考察する。

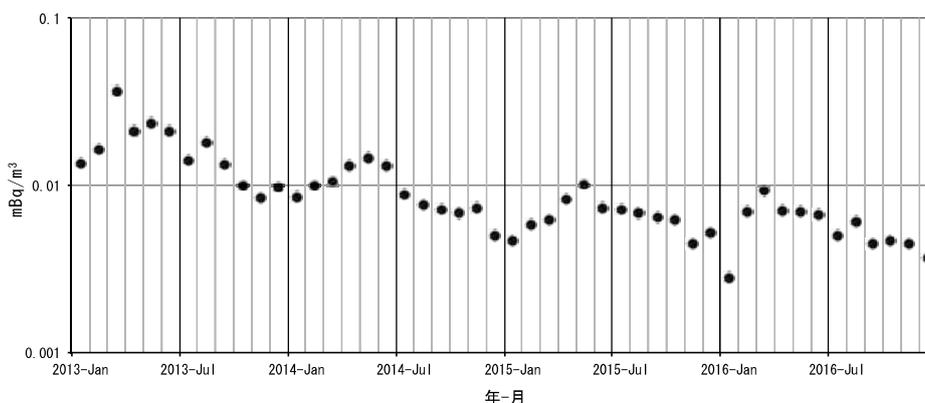


図1. 大気中浮遊塵に含まれるセシウム濃度の時間推移

*1 Radioisotope Laboratory, Faculty of Science, Yamagata University

*2 Graduate School of Science, Yamagata University;

*3 Faculty of Science, Yamagata University;